

### 平成30年度 船舶調査計画書

1 船 名 北光丸 (北海道区水産研究所)

2 総トン数・馬力数 902トン 4,000馬力

3 調 査 名 親潮広域調査・道東沖沿岸高密度調査・気候変動影響評価調査・海水融解水調査・道東沖漁場環境調査  
 (予定している予算科目名:沿資補助「スケトウダラ」(1AB401)、沿資委託「漁場形成」(1BB401)、科研費基礎盤A(1BA-308)、交付金課題(2AA101, 3AA101, 3AB103, 1BA102, 3AB102, 3AB104, 3AA502))

4 調 査 期 間 平成31年1月18日～平成31年1月29日 (12日間) (航海数:1航海)

5 担当研究所等 北海道区水産研究所 生産環境部 生産変動グループ  
 責任担当者 : 黒田 寛  
 電 話 : 0154-92-1723

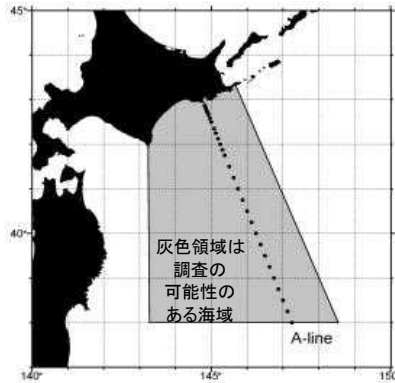
6 乗船調査員等	氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	黒田 寛	北水研((併)中央水研)	1月18日～1月29日
	葛西広海	北水研	1月18日～1月29日
	谷内由貴子	北水研	1月18日～1月29日
契 約 職 員 :	未定		

7 調 査 目 的 親潮域・混合域の海洋構造および低次生態系構造の変動を把握し、気候変動や海況変動が漁業や資源変動に与える影響を評価するため、A-lineにおけるモニタリングを行う。本調査では、特に、海水融解水に焦点を絞ったプレブルーム期の海洋環境データを取得する。得られた水温塩分データは、速報値として、TESAC通報を通じてGTSPPIに配信する。さらに、海洋環境データは海洋モデルの出力を校正するために、また、海況予測システムFRA-ROMSを制御するために利用する。道東陸棚沿岸域などにおいて高解像度集中観測をおこない、当該海域における水塊構造、流動場、および生物環境を把握し、漁場形成・漁況予測事業における日本全域超高解像度版FRA-ROMSのチューニングに利用する。

- 8 調 査 項 目
- ① 海 洋 観 測 : 表面水温、XCTD観測、CTD観測、濁度センサー観測、PRR観測、キャローセル採水(クロロフィル、栄養塩、植物プランクトン、微小動物プランクトン、溶存酸素、フローサイトメトリー)、ADCP観測、LADCP調査、OPCS観測
  - ③ プランクトン調査 : プランクトン採集(NORPACネット、BONGOネット)
  - ⑨ そ の 他 調 査 : 動植物プランクトンの船上培養実験調査

9 調 査 海 域 道東沖沿岸域、親潮域、混合域

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
1月18日	釧路出港		1	8	3	
1月29日	釧路入港					数日毎の寒気吹き出しで調査不可のため、安全を確保するには予備日が必要
	合計		1	8	3	

12 消費燃油予定量 油種: 重油 (軽油) 消費量 72 KL